

2 型糖尿病スクリーニングで糖尿病の進行を抑制

2 型糖尿病スクリーニングを行うことで、症状のない糖尿病や空腹時血糖異常、耐糖能異常を早期発見・早期治療することができ、予後の改善につながることが考えられる。米国予防医療サービス対策委員会が 2008 年に出した 2 型糖尿病スクリーニングに関する勧告を改訂するため、系統的レビューを実施した。

2007 年から 2014 年に発表された 2 型糖尿病スクリーニングに関する文献を抽出したところ、症状のない成人に対するスクリーニングで空腹時血糖異常、耐糖能異常を発見し治療を行えば、2 型糖尿病への進行を遅らせることができることを支持する研究が 16 件あった。一方、スクリーニングが死亡率の低減をもたらすとのエビデンスはみられず、2 件の研究ではスクリーニング実施群と非実施群における 10 年間の追跡期間の死亡率に差はなかった（ハザード比 1.06）。しかし、耐糖能異常を有する過体重者に対し生活習慣の是正を行い、23 年間追跡した結果、全死亡率および心臓血管病による死亡率の低下が示された研究が 1 件あった。

今回の系統的レビューにより、症状のない成人に対する 2 型糖尿病のスクリーニングで死亡リスクは低減できないが、空腹時血糖異常や耐糖能異常から 2 型糖尿病への進行を遅らせることができる可能性が示唆された。

出典：Annals of Internal Medicine. Published online Apr 14, 2015